令和７年度国際関係学部一般選抜Ａ個別方式（第１期）出題意図について

国　語

大問１

現代文の読解力を試す問題。内容は江戸末期にアイヌ民族の惨状を報告した松浦武四郎についての著作の解説文。読解を通して，多文化との共生や，権力に抵抗し敗者や弱者に共感する先人の生き方を知り，自らの生き方について考える契機になることを意図している。

・問一，問六は語彙問題，この程度は知っておいてほしいと思われる言葉の意味を尋ねた。万が一知らなくても，前後の文章から意味は理解できるはずなので，読解力と推察力も試している。
・問二，三は文章の中で言葉の意味を正確に理解できているのかを問うことを意図した問題。
・問四は前後の文章からこの言葉の意味を説明することができるのかを問うた問題。
・問五，九，十は漢字の読み書きを試す問題。問十は同時に文章の主張を理解しているかどうかを試している。
・問七は前後の文章から判断し，入る言葉を選択する問題。正確に文章を読み解けるかを試している。
・問八は前後の文章から指定文書の合意を読み解く問題。推察力を問うている。
・問十一，十二は問題文全体を正確に理解しているのかを問うている。特に問十二は，文中に登場する松浦武四郎，花崎皋平，池澤夏樹の関係性を理解しているのかを問う意図がある。

大問２

現代文（評論文）の読解力を試す問題。内容は熟達者が持つ直観の本質について複数の事例を提示しながら，多角的に論じたものである。様々な事例を通して熟達するとはどういうことなのかを理解し，自身が成長するための経験や知識につなげることを意図している。

・問一，九は正しい漢字表記ができるかを問う問題。字形が類似した漢字の使い分けがで

きるかについても試している。
・問二，三，四は文章の内容を正確に把握できているかを問う問題。
・問五，六は前後の文の結束性と接続詞の機能を理解しているかを問う問題。
・問七，八，十一は文章の内容を論理的に理解できているかを問う問題。
・問十は類義語の意味の違いと慣用的な使い方についての知識を問う空欄補充問題。
・問十二は問題文全体を正確に把握し，理解できているかを問う問題。

大問３

鎌倉時代成立とされる説話『宇治拾遺物語』を題材として，古文を正確に読解する能力や古典文法，文学史の流れに関する理解力を問う。

・問一　古典の基礎知識を踏まえ，昔の地名について理解しているかについて確認した。
・問二　古文を正確に読解できているか問うた。「晴明の所感」について問うことで，前後の文脈が理解できているか確認した。
・問三と問六　古典文法の基礎知識を踏まえ，敬語や助動詞について理解しているか確認した。
・問四　古典の基礎知識を踏まえ，「今は往ぬらん」について正しい現代語訳ができるか確認した。
・問五　古文を正確に読解できているか問うた。「あが君」が具体的に誰を示すかについて問うことで，前後の文脈が理解できているか確認した。
・問七　古文を正確に読解する能力を問うた。問題文の内容と合致するものについて問うことで，問題文全体の内容について理解できているか確認した。
・問八　文学史の基礎知識を踏まえ，『宇治拾遺物語』の成立やジャンルなどについて理解できているか確認した。